

# 入院時様式に対する意見（病院）

No.	文書種類	項目	意見
1	入院時情報提供書	1.利用者（患者）基本情報、住環境	回復期リハ病棟では自宅環境調査書という様式があり、段差や階段など環境を踏まえて退院後の生活に活用できるような情報を得ている。急性期病棟で活用できるかは議論が必要。 退院時期待する状況を記載してほしい。 例えば家に入る前に階段が3段あるので上れる状況で帰ってきてほしい等。（5.在宅生活に必要な条件に記載しては？）
		3.本人/家族の意向について	本人の趣味・興味・関心領域等の所に、本人の経歴などで価値観に関する内容やコミュニケーションの取り方のポイント等があると面談時に活用できる。
		5.今後の在宅生活の展望について （ケアマネージャーとしての意見）	主たる介護者以外の協力者の情報があると指導の際に活かすことができる。（特記事項に記載でもよい）
		7.身体・生活機能の状況/療養生活上の課題について	ADLの部分は自宅でどの程度動いていたのかを把握するためには重要。（回復目標として参考にしたい）
2	訪問看護サマリー	介護情報	キーパーソン、主たる介護者の区別と能力について記載してほしい。
		訪問看護指示期間	訪問看護指示期間（最新情報）の記載が欲しい。
3	入院前の患者の服薬状況等に係る情報提供書	今後使用したい様式	厚労省が電子処方箋やオンライン診療等ICT活用政策を進めており、統一した様式が出されている。これを用いてかかりつけ薬局と病院薬剤師が情報共有することを安城更生病院心不全チームを中心に開始された。今後安城市薬剤師会でも使用していく方針。

## 退院時様式に関する意見（在宅）

No.	文書種類	項目	意見
1	入退院支援連携説明書	介護支援等連携指導料算定時に使用	なし
2	医療介護連携支援シート		なし
3	退院時共同指導説明書（看護）	退院時共同指導料算定時使用	なし
4	退院時共同指導説明書（栄養）		なし
5	入院時看護要約	フリー記載の様式	本人の状況に応じて入院中の経過が分かりやすくまとめられている。内服薬について看護サマリーに書かれており、大変役に立っている。入院中に使用した屯用薬剤の使用効果や頻度等詳細に書かれておりありがたい。
6	看護サマリー	薬剤について	入院中に使用した薬剤のアレルギー情報があると、在宅でアナフィラキシーショックの予防対応等対策を考えられる。 麻薬使用患者のレスキュー回数、タイミングが書かれていると、自宅での疼痛コントロール時に参考にできる。
		看護計画について（追加）	疾患により観察ポイントが異なるため、その人の看護計画、評価が書かれていると良い。
		セルフケア能力	ADLがBIで評価されているのでADLに支障がある場合は具体的内容を記載してほしい。
		病気・治療についての受け止め方	退院時のIC内容と本人家族の反応について記載が欲しい。入院時の情報が書かれている。
		睡眠の状況	夜間の様子を具体的に書いてほしい。中途覚醒や不穏等
		抑制	抑制についても具体的な方法があると良い
		退院指導内容	具体例と残された課題を書いてほしい
		セルフケア能力・食事	水分のとりみの程度や食形態等（共通の基準）で書いてほしい。デイサービスに情報提供したい。

## 退院時様式に関する意見（在宅）

No.	文書種類	項目	意見
		入浴方法	許可の基準や配慮する内容について記載してほしい。
		次回受診日	日付を書いてほしい。介護タクシーの準備などに活用したい。
		薬の内容が書かれていない	入院中に使用した屯用薬剤の使用頻度等
7	リハビリ情報提供書	算定区分	1日の単位数が書かれていると必要性が判断できる
		個人の特性・リスク・そのほか	意欲、本人のパーソナリティがあると、退院後リハ時に本人の価値観や関心のある事項を把握し活用できる。
		機能評価	本人の目標を書いてほしい。入院中のもよいので。退院後目標をどこに置くかを検討する材料にしたい。
		追加情報	目標に対する達成度（評価）があると良い。
8	退院前の患者の服薬状況等に係る情報提供書	今後使用したい様式	厚労省が電子処方箋やオンライン診療等ICT活用政策を進めており、統一した様式が出されている。これを用いてかかりつけ薬局と病院薬剤師が情報共有することを安城更生病院心不全チームを中心に開始された。今後安城市薬剤師会でも使用していく方針。